

平成 30 年度 出前懇談会 会議録			
地区	大鶴 地区		市長・副市長の出席 市長・副市長
日時	平成 30 年 8 月 22 日 (水) 19:00～20:45		場所 大鶴公民館 集会室
地区 参加者	井上大鶴町自治会長 (地区理事) 藤井上宮町自治会長 黒木鶴河内町自治会長 森山大鶴本町自治会長 首藤大肥町自治会長 石井大肥本町自治会長 石井大鶴地区振興協議会長 他		計 40 名
担当 グループ	リーダー	高瀬 福祉保健部長	副リーダー 江田 環境課長
	プレゼン ター	財津 都市整備課長	連絡調整担当 遠坂 大鶴振興センター長
	書記	相垣 すぎっ子園長	
	構成員	梶原 文化財保護課長 仲 学校教育課長	河野 契約検査室長
	その他		
議題	テ ー マ		説 明 者
	1. 「防災・減災の取組」～それぞれの取組～		財津 都市整備課長
	2. 「土砂災害警戒区域」とは、		財津 都市整備課長

1. 「防災・減災の取組」～それぞれの取組～

2. 「土砂災害警戒区域」とは、

(質問)

- ・ 広葉樹の植林に対しての助成制度はなくなったのか？

(回答)

- ・ その助成制度はなくなっている。
- ・ 混交林を植えていく、間伐の仕方を考えていくという案が出来ているので、今後の施策の中で出ていく事になるだろう。
- ・ 復旧復興だけではなく、生産性の高い山を造っていく事を視野に入れながら、樹種等も考えていき、専門家を入れての勉強を行っていく事も必要ではないかと考えている。

(質問)

- ・ハザードマップはいつ頃完成するのだろうか？

(回答)

- ・時期ははっきりしていない。県内では2万箇所以上あるので相当の時間を要するだろう。
- ・イエローゾーンに関しては山の傾斜（見た目の角度）により、決められているとの事。
- ・地質調査まで行った上のものではない。
- ・レッドゾーンの部分だけでも、深い地質調査の中で報告していただきたいと思っている。
- ・豪雨の土砂災害だけではなく、地震に関しても気になる所なので、断層を含めての調査をしても
らいたいと話をしている。

(市長からの質問)

- ・放送連絡手段の調査をしている。市からの避難勧告や指示の第1報は、どこから入手できたのだろうか。

(住民回答)

- ・防災メール（18名）、SNS（2名）、自治会長からの電話（1名）、エリアメール（東峰村〜が早かった）

(意見)

- ・高齢者は携帯を持っていないし、インターネットも使えない。
- ・メールで情報をとれるのは、限られた範囲の人なのではないだろうか。

(回答)

- ・情報伝達手段を模索、調査をしている。
- ・“ラジオ型の防災ラジオ”であれば、衛生を使って、各戸に自動で情報が入る。町内連絡でも使えるが、このシステムの導入には莫大な費用がかかる。
- ・実際導入した時、利用していただけるだろうか？情報取得に役立てられるだろうか？利用頻度が
確実になければ難しい。

(質問)

- ・小学校からの連絡は早い段階で来ていたが、情報が早く届くのだろうか？

(回答)

- ・気象庁や国交省から連絡が来てからのメール配信となるが、昨今は突然の激しい雨等、短時間のうちに状況が変化してくることが多くなった。

(質問)

- ・小学校学校長判断なのだろうか？「堤防が切れた。」という、情報は学校の方が早かった。

(回答)

- ・「堤防が切れた位の・・・」という情報ではなかったのだろうか？その可能性がある・・・という情報は市にも来ていた。

(意見)

- ・「水が増えている・・・」という情報は消防にも来ていた。その情報があって、学校長のいち早い判断があった。

(意見)

- ・昨年は雨があまり降っていない状況の時、避難準備の放送があった。その後、勧告や指示と、テレビでも出されたが、住民もこの経験により、災害の怖さ、早目の準備や避難の大切さを実感した。

(回答)

- ・危険を察知し、住民の方が自ら避難の行動を起こしていただいた事で、人的被害は最小限で止められたのだと考える。
- ・大雨情報が警報に変わり、わずかな時間で豪雨になる線状降雨帯の発生が今後多くなると考える。
- ・避難情報は、ぎりぎりまで考えて情報を出すようにしている。
- ・わずかな時間で状況が変化するので、対応しにくい状況になっている。
- ・7月5日の時、三隈川が氾濫水位前まで来ていた。夜中の事だったので勧告は出していない。
- ・避難情報が伝わるように、隈消防分団が動いていただき準備はしていた。

(意見)

- ・各家庭についている防災端末が一番伝わりやすいのではないだろうか。

(回答)

- ・約2万3千戸についているが、ケーブルが切れれば使えない。それを解消するには莫大な費用がかかる。
- ・住民の方の意見をいただき、これが活用できるのであれば、準備をしていきたいと考えている。

(質問)・どれ位の費用がかかるのだろう

(回答)

- ・7億程度。

(意見)

- ・情報が入手出来なくなったのは、いつの段階からだったのかを調べてみるとよいのではないだろうか？
- ・そうすれば、このような経験をしたことで、「これは危ない」というような自主判断を、ある程度できるようになると思う。
- ・このような話し合いの場を、あまり時間をおかないうちに、何度も繰り返していくと、自然に意識も高まってくるのではないだろうか

(回答)

- ・多分一報は、ほぼ届いているのだと考えられる。
- ・状況が一気に変わってきたので、避難準備から勧告、指示がでるまでのタイム・ラグはない状況だった。

(意見)

- ・「死んでもいいので、避難はしない」と言う人もいた。

(回答)

- ・それを受けて、勧告はなるべく夜中には出さないようにしている。
- ・PM3時、5時、6時の3回位を出している。1~2時間置きに早目に出していこうとしている。
- ・どのような状況であれば、正しいと感じられるのだろうか？

(質問)

- ・一番初めは、誰から情報が来るのか？

(回答)

- ・気象庁、国交省の情報が入る。その後自衛隊その他の情報を集めていく。

(質問)

- ・「ここが危ない」というような、ピンポイントの情報はないのか？

(回答)

- ・それはない。

(意見)

- ・市内と、大鶴地区では状況が違うので、市から出してもらうものに、ズレが出る。
- ・各地区から情報収集できるシステムを作ったらよいのではないだろうか。
- ・例えば、雨量計を設置するなど。

(回答)

- ・日田市の防災計画の中には、河川毎に氾濫危険水位がある。また雨量計を設置している箇所もある。
- ・それぞれに基準があり、それを超したときにその地区に勧告や指示を出している。
- ・川の状況を、直接見れるように、ライブカメラを増やしている。
- ・夜間も確認できるようにカメラに照明の設置を考えている。

(意見)

- ・大肥川の大雨警報は11時くらいに出た。洪水注意報が1時30分、その後1時52分位に高齢者避難準備、3時15分に避難勧告が出ている。指示はずっと遅かった。ところが、勧告の時点で、水は出ており堤防は決壊していた。前回の経験により、皆早目の避難をしたのだと思う。
- ・空振りでもよいので、早目の対応をお願いしたい。
- ・住民は、われわれの言葉より、行政の言葉の方を信じている。
- ・現地と上手く、連携をとってほしい。
- ・去年は、昼間で停電にならなかったなので、情報伝達が出来たのではないだろうか。

(回答)

- ・防災ラジオは衛星を経由する。停電になっても自動で情報をキャッチできる。衛星を通して、役所に送ることもできる。
- ・実際、情報が届かなくなるのは、災害発生後の事となる。情報伝達手段が切れた。
- ・小野の場合、安否確認ができなくなった。
- ・発生後も、地区内で情報が取れるような状況がつけられたらよい・・・と考える。
- ・上手くいけば、来年度中には設置したいと考えているが、他によい手段があれば、ご意見をいただきたい。

(意見)

- ・防災メールなどは登録するような場を設定したらよいのではないか。

(回答)

- ・振興センター等で行えば、来ていただけるのだろうか？
- ・毎月15日の広報ひたには掲載している。

(意見)

- ・上手く使えない。

(意見)

- ・こういう経験は始めてだったので、横の繋がりなど考えていなかった。
- ・自分の事だけで、情報を流すという行為はできなかった。
- ・「こういう場合はこうした方がよい」という事を最初にした方がよいと思う。

(意見)

- ・「地区や町内毎に講習会をする。」等して、声掛けしていく事が大切だと思う。

(回答)

- ・24年の災害後には登録の呼びかけをしたが、なかなか広がらなかった。

(意見)

- ・携帯は持っているが、登録の仕方がわからないのでしていない。

(回答)

- ・職員が出て回って行く。本日の会の終了後でも行える。

(意見)

- ・大肥本町が実施したような避難訓練を、どこの地区でも行ってほしい。
- ・地域で行っていけば、防災に対する意識も高まると思う。

(意見)

- ・積極的に行っていくのは、被災したところだと思う。
- ・個人個人の意識が高まらないといけないし、前向きにならない。

(回答)

- ・時間はかかるだろうが、住民の方も意識を少しはじめた感はある。

(意見)

- ・大雨、水害と恐怖感を感じるようになった。
- ・河川工事をみていると、今後大雨等になった場合、工事中の場所に材木が来たり、砂が溜まったりしていくのでは・・・と心配になる。

(回答)

- ・工事が完了すればなんとかなるのだが、現段階では、去年の災害が発生した時より、状態はあきらかに悪い。
- ・今年～来年にかけては、これまで以上の緊張感を持って「情報収集と早目の避難」をしてほしい。
- ・「工事が始まったから良い。」という状況ではない。

(要望)

- ・大雨の前に土嚢を積んでほしい。

(意見)

- ・市は、一生懸命取り組んでくれていると思う。
- ・被災をした人が意識を持つことが大切だろう。

- ・例えば、「雨が降り出してサイレンがなったら、みんなで避難しよう。」等、方法は色々あると思うが、まずは住民が意識をもち、地元で活動をした方がよい。
- ・防災士を各自治会に置く、という活動も始まっている。
- ・参加をしている人の意識は高いのだと思うが、それ以外の方の意識の向上も大切。
- ・訓練等で意識を高めていく。
- ・行政主導ではなく、自分たちですていく事が大切だと思う。

(回答)

- ・防災士の派遣、防災訓練等には、市が補助を行っている。

(意見)

- ・防災士組織を、できるだけ早く作り上げてほしい。
- ・少なくとも町内に2名以上は養成してほしい。
- ・防災士を増やす事で、自治会長の負担を軽減してほしい。
- ・災害時も、防災士であれば動きやすいこともあると思う。

(意見)

- ・地元の意識が低い。
- ・しかし、災害を経験したことで、50名位の方が訓練に参加してくれた。市からも進めてほしい。
- ・自治会長の力でも、防災士の力でも難しい。住民みんなの意識が必要だと考える。
- ・強制的に参加してもらってもありなのか？

(回答)

- ・自分の身は自分で守る事。また守りあえる人で守りあっていく事が大切だと思う。
- ・災害のみならず、自治会長が背負っているところのリスクをどのようにして軽減していくかを考えていきたい。

(意見)

- ・大肥本町では、7月5日の「防災の日」に防災訓練を行ったように、各町内で1度行ってみると、どれ位集まってくれるのかがわかるのではないだろうか。

(回答)

- ・講師の派遣等もできるので、その地域にあったもので、ぜひ取り組んでほしい。
- ・市としても支援を行っていく。

(意見)

- ・24年の災害以降、意識は高くなっている。
- ・ひとつひとつの積み重ねであり、継続していく事が大切だろう。

(質問)

- ・日田市内の土質の状況はどのようなだろうか

(回答)

- ・真砂土、溶岩、珪藻土、灰土等、その地域により様々な土壌がある。
- ・そのような土が、まだらになっている状態でもある。
- ・レッドゾーンの部分だけは、地質調査してほしいという思いはある。

(意見)

- ・市営住宅にお世話になり、その後何とか自宅に住めるようになった。

(回答)

- ・復旧復興計画の中で、工事は進んでいくのだが、そこに人が戻ってこなくてはどうにもならない。
- ・振興策を行っていかなくてはならない。
- ・集落営農や様々な案を考えていく必要がある。
- ・情報提供はしていくが、今後どうしていくのか、若い人が帰って来るため、自分の人生の生業ため、次に向かってスタートしてほしい。

(その他の事項についての意見)

○下河内橋～日明原線について

(要望)

- ・道幅も狭く、大型の通りも多い。大変危険な状態である。

(回答)

- ・現在計画中であり、これから改良計画に入っていく。
- ・今後地元の方にも協議をいただきたい。
- ・県の河川改修で橋も広くなる予定。明日、確認をとる。

(意見)

- ・今、現在が通行するのに危険であるので、誘導員を配置してほしい。
- ・事故が起きてからでは遅い。

(回答)

- ・災害により工事の発注が多いため、交通誘導員が不足しており、そのことが課題となっている。
- ・危険である分は、土木の方でも確認をしながら、県の方へも話をしていきたい。

○農業用ため池調査について

(要望)

- ・田の原公園近くのため池の安全確認調査をお願いしたい。